まちなか地区“快適まち歩き”ナビMAP

SPOT 観光スポット情報

石垣の道 #2

［旧高取邸］
炭鉱主「高取伊好」の旧邸。敷地面積2,300坪、建築面積480坪。和風を基調としながら、居室棟に洋間を持つなど同時代の邸宅の特色を備える一方、大広間に能舞台を設けるなど、他に類を見ない構成を持つ。

○入場料／大人(15歳以上)500円　小人(4歳以上15歳未満)250円

埋門小路 #9

［河村美術館］
小機良平[こいそりょうへい]、岸田劉生[きしたりゅうせい]の作品やフランスの七宝焼などを収めた私設美術館。必見は2階の青木繁展示室で、唐津に滞在して描き上げた「夕焼けの海」や初期の水彩画など18点を展示。

○開館時間／AM10:00～PM5:00（入館はPM4:30まで）
○開館日／土・日・祝日のみ

埋門小路 #7

［埋門ノ館］
旧唐津藩時代の名称を附した埋門ノ館は、武家屋敷風の休息所として市民、観光客の憩いの場となっている。また、華道、茶道、舞踊、能など市民の地域活動の場として利用されている。

○一般公開

二ノ門堀通り #1

［時の太鼓］
唐津城絵図によれば、江戸時代五代藩主水野公時代(1762～1817)には、「時之太鼓」がこの地に置かれたことが示されており、このゆかりの地に平成3年度に「時の太鼓」が復元された。

○一般公開

唐津っ子の誇り
人を、生命を、酔わせる「唐津くんち」

文政二年(一八一九年)の町の赤獅子の奉納が起源とされる秋祭り「唐津くんち」は、毎年十一月二・三・四日に江戸時代の町火消し装束をふまえに伝えて「黒太鼓の囃子」「獅子舞」「殿引」等に年を重ね、町ごとに意匠をこらしたいなせな法被姿の曳子達が、「練り」・「太鼓の男衆」・「曳山」・「獅子」に力を注いでいる時は来かっあの所は綾く市内の町筋を曳き回ります。

西ノ門小路 #2

［西ノ門館］
唐津城三ノ丸の西側出入口にあたるこの場所が西ノ門小路とよばれていたことから名が付いた。館内では唐津市内から出土された江戸時代の唐津焼などの出土文化財の展示や、若手作家中心の唐津焼の展示販売を行う。

○一般公開

明神小路 #7

［唐津神社］
奈良時代の天平勝宝7年(755)創紀されたと伝えられる古社で「唐津くんち」で有名な神社。禍事清紋、海上安全、火伏、唐津の総鎮守(諸事安全)のご利益があるといわれ、三が日には初詣客で賑わう。12月31日には除夜祭があり、1月1日には歳旦祭が執行される。

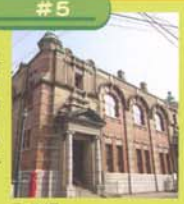
○一般公開

明神小路 #8

［曳山展示場］
「唐津くんち」の主役である、曳山14台が収められている展示場。古いものでは文政2年(1819)に作られた赤獅子がある。数百枚もの和紙を重ねて漆を塗り、金銀を施した曳山は芸術品のよう。祭りを記録したビデオコーナーもある。

○入場料／大人(15歳以上)　300円
小人　150円(4歳以上15歳未満)
○開館／毎日　開館時間　午前9時～午後6時

柳堀通り #5



［旧唐津銀行］
東京駅を設計した辰野金吾博士(唐津出身)の弟子・田中実設計の建物。明治45年(1912)に建てられた。現在は、まちなかの賑わいスペースとして開放されしている。

○一般公開

城下町の風情を伝える石垣や町並み…、歩くごとに江戸と出逢う街

約四〇〇年前の城下町の名残を楽しむことができる唐津市。いまも石垣や堀跡、江戸からの屋号を冠した老舗が各所に残っています。

町人が暮らしていた外曲輪(そとくるわ)から、藩士が暮らしていた三の丸、など、昔から残る石垣などを見ながら散策し、四〇〇年前の唐津に思いを馳せてみて下さい。

凡例

- 駐車場
- 地点番号
- 案内標識
- 社会実験対象ルート　東西方向（起点）→（終点）　南北方向（起点）→（終点）
- 唐津くんちルート

案内標識ガイド

西ノ門小路 #11 西ノ門館⇔唐津城
- 通り名
- 通りの終点方向
- 地点番号

社会実験対象ルートに設置の案内標識の見方

ナビMAPに記載の「＃○」の位置には、約30m間隔を基本に左のデザインの案内標識（東西方向は緑・南北方向は青）が設置されています。案内標識には、社会実験用につけた仮の通り名と通りの起点から終点方向に順番につけた地点番号が示されています。また矢印は起点から終点の方向を示し進むに従い、地点番号が1，2，3と増えていきます。通りの名前や地点番号をたよりに、目的地へおこしください。

お立ち寄り観光情報!